

早稲田大学 図書館紀要

第 64 号



「変える」ということ

深澤良彰

二〇一四年九月館長就任時、鎌田総長から図書館長としての私に託されたことは、「新しい図書館を作ってほしい」ということであった。私は、このフリーズを、水戸黄門の印籠のように使いながらこの二年半ほどを過ごしてきた。

私は、過去、教務部長時代に、「教育」が変わってきたことを実感した。また、その後、研究推進担当総括理事時代には、「研究」のスタイルを変えることに注力してきた。「教育」が変わり、「研究」が変わり、その双方の基盤となる図書館が変わらないですむはずがない。これが、私の信念でもある。

しかし、変えるのは、館長ではなく、図書館職員である。図書館職員が変えようと思わなければ何も変わらない。また、変える対象としても、すべてのものをその対象として考えるべきである。その中には、当然、歴史あるこの図書館紀要も含まれるであろう。

バラク・オバマ元アメリカ大統領は、自らの最後の演説を以下のように結んだ。

I am asking you to believe. Not in my ability to bring about change - but in yours.

(略)

Yes We Can.

Yes We Did.

Yes We Can.

私の任期はあと一年半ほどあるものの、このフリーズを今図書館職員のみなさんにも捧げたい。

2017 年 3 月